

全ての被災者が元の生活に戻るまで支援を 大平さん 岡山市北区の被災地を調査



大平喜信前衆議院議員は8月9日、岡山市北区の被災地を訪れ、森脇久紀県議、河田正一市議の案内で金川・国ヶ原・法界院・津高などでの家屋の被害状況、牟佐の黄ニラ・パクチーなどの農業被害の状況を調査しました。

北区は床上浸水 1684 棟、床下浸水 3648 棟、土砂等の流入 14 棟、被災家屋 5346 棟という広範な被害を受けており、日本共産党県議団・市議団は被災者の声を聞きながら支援活動に取り組んでいます。

大平さんは、「国の支援制度がない被災者の救済問題とともに、半壊以上の方には岡山市が国の制度をキチンと活用すれば支援は可能だ。全ての被災者が災害前の生活に戻るよう全力を尽くしたい」と強調していました。(写真は牟佐のパクチー生産者の声を聞く調査団)

被災の現実と向き合う若者たちの奮闘が各地で

今回の豪雨災害では、各地の被災地で民青同盟員ら若者たちの奮闘が見受けられます。

広島の日対連ニュースでは、20代の若者が被災の現実と向き合いながら頑張っている姿が紹介されています。「家一軒を対応する(泥かき、ごみの処理等)のでも、ここまでの労力と人員が必要だということを知った。正直、想像以上に驚いた。また参加したい」(20代男性)、「情けないことに、この暑さのあまり途中でバテてしまいました。被災者の方が元の生活を取り戻すには時間もお金もかかります。長い目で自分の出来る事を追求していきたいと思います」(20代女性)



.....

「前衛」9月号に「西日本豪雨災害 生活・生業の再建へ」と題して仁比聡平参議院議員、大平喜信前衆議院議員、白川容子衆議院比例四国ブロック予定候補の3人の座談会が掲載されています。3人の奮闘ぶりとともに、生活・生業再建の方向も明らかになっています。ぜひ、ご覧ください。